



日本共産党
西宮市議会議員

2019年12月17日発行
【共産党議員団控室】六湛寺町10番3号
(TEL)0798-35-3368 (FAX)0798-22-7815
(携帯)090-7764-0743

ひぐち光冬 みつ ふゆ 通信 Vol. 22



12月議会 一般質問

12月6日、私は3つのテーマ（1. ヘルプマークについて、2. 教員間のハラスメントが起きない学校づくりについて、3. 不登校支援について）で一般質問を行いました。今回の質問によって、いくつかの施策は前進いたしました。以下、それぞれ解説します。

※一般質問…議員から市当局へ質問・提案すること

1. ヘルプマークについて

ヘルプマークとは、“見た目では障害があるとわかりにくい方が身に付けるマーク”なのですが、当事者の方から「ヘルプマークがあまり知られていなくて困っている」という声をお聞きして、一般質問として取り上げることにしました。



質問

1. 医療機関や銀行・郵便局・コンビニなどでポスターを掲示したらどうか？
2. 当事者自身がヘルプマークの存在を知らない現状もあるので、作業所などで直接配布したらどうか？（現在は、市役所・支所・保健所でしか配布していません）
3. 学校園でもヘルプマークのチラシを配るなど、もっと周知すべきだと思うがどうか？
4. 「ヘルプマーク普及パートナーシップ制度」を企業と提携し、ヘルプマークの普及を手伝ってもらってはどうか？（提携企業は市のホームページに掲載する）
5. “逆ヘルプマーク”の「緑のヘルプマーク」を本市でも導入すべきと考えるがどうか？（※緑のヘルプマークは、“手助けします”のサイン。静岡県で導入が検討されている。）

成果

- 医療機関にポスター掲示を依頼してもらえることに！
- 学校園でも、福祉学習の時間に、チラシを配布してもらえることに！
- 「ヘルプマーク普及パートナーシップ制度」を研究してもらえることに！

（作業所などでヘルプマークを直接配布することと、緑のヘルプマークの導入は叶いませんでした。残念！）

2. 教員間のハラスメントが起きない学校づくりについて

神戸の東須磨小学校で起きた教員間のいじめ事件は、みなさまも記憶に新しいことと思います。私は西宮で同じことを起こしてはならないと思い、できるだけ多くの先生方の意見を聞いたりシンポジウムに参加したりしながら考えをまとめ、適切な対応を求めました。



質問

1. 「ハラスメント調査」を本市でも実施すべきと考えるがどうか？
2. 教員が声をあげられる仕組みのひとつとして、第三者機関である「オンブズマン制度」を構築すべきと考えるがどうか？
3. 教員が本来の力を存分に発揮し、子どもたちと十分に向き合える環境を整えていくことが、結果的にハラスメントの起きにくい学校に繋がっていくと考える。そのために中3まで35人学級を実現することは有効だと考えるがどうか？

成果

- 具体的な成果はなし！悔しい！（ハラスメント調査もオンブズマン制度もしないとの回答。35人学級は国・県に要望していくとのこと）

※残念ながら今回は目に見える形の成果を上げることはできませんでしたが、教員の過酷な実態を明らかにし、その問題意識を共有できたことはよかったと思っています。

3. 不登校支援について

全国的に急増している不登校数。西宮市でもこの3年間で、小・中ともにほぼ倍増しています。対応が急がれる不登校支援の改善を求めました。

あすなる学級なるおきた→



質問

1. あすなる学級(適応指導教室)において「学校復帰」を前提とするのはやめるべきでは？
2. 同時に「適応指導教室」という名称を改め、「教育支援センター」にすべきでは？
3. 長期休暇後のあすなる学級の開始時期をあえて遅らせることはやめ、学校の開始時期と合わせるべきでは？（これまでは開始時期をずらし、学校への登校を促していました）
4. 民間のフリースクールに通う場合の「出席扱い」の基準を明確にし、より多くの不登校児の努力を「出席」として認めるべきだと考えるがどうか？

成果

- 「学校復帰」を前提とするのはやめることに！（今後は“社会的自立”が目標に）
- 「適応指導教室」改め、「教育支援センター」と呼ぶことに！
- 長期休暇後は、学校と同じタイミングで開始することに！

※残念ながら「出席扱い」の見直しはなされませんでした。全体的に多くの前進がありました。よかった！